

10月8日(火) 午後5時45分～7時15分(開場:午後5時、終了後 懇親会)
KARTHシリーズ勉強会「地域の文化遺産を守り活かす」
第4回「町並み保存のもたらしたもの」

昨今、地震大国日本の各地で近い将来の大地震発生が危惧されていますが、各地の木造伝統文化を活かした安心・安全まちづくりをさまざまな視点から考える勉強会を企画しました。

第一弾は、各地に存在する地域の文化遺産の保全・活用の考え方を、長年、世界レベルで文化財保全の研究に携わっておられる上野邦一先生から学ぶ勉強会をシリーズで開催いたします。是非、お気軽にご参加下さい。

「民家調査は農家を主体に実施されたと言ってよい。

町家の研究は、町並み調査に平行して深化したのである。

京都系の町家が多いと考えられていたが、むしろそれぞれの地域の農家をベースに町家が成立している、と考えた方がよい。」

生きている文化遺産の考え方。寺院・神社も生きている。

「町並み保存憲章」 民家保存の功罪

講師 上野 邦一 先生(奈良女子大学古代学学術研究センター)

1944年生まれ。名古屋大学を卒業し、大学院を経て奈良国立文化財研究所に21年在職し、その後、奈良女子大学教官を勤める。1989年から東南アジアの建築・遺跡の研究・保護に関わり、現在に至る。日本建築史・東南アジア建築史が専門。工学博士。



堺島勝本の町並み 地元で町並み保存が始まったばかりか

会場 西陣ヒコバエノ家(京都市上京区^{カミタチウリドオリジョウフクジニシイルウバカトウザイチョウ}上立売通浄福寺西入ル姥ヶ東西町632)
参加費 勉強会 500円(学生 無料)、懇親会 800円(学生400円、飲み物・軽食付)
参加方法 お名前、所属、TEL、FAX、メールアドレスを明記の上、懇親会の参加の有無も含めて、10月1日(火)までに下記までお申し込み下さい。

参加申込先 関西木造住文化研究会(略称 KARTH:カ-ス、Kansai Association for the Research in Traditional Housings)
京都市上京区上立売通浄福寺西入ル姥ヶ東西町 632、
TEL 075-411-2730 悠(ユウ)計画研究所内、FAX 075-411-2725、
E-mail info@karth.sakura.ne.jp、<http://karth.blog13.fc2.com/>



会場建物

会場に駐車場はありません。
 自転車の駐輪場所は当日受付でお問合せ下さい
 会場への交通アクセス

バス停「今出川浄福寺」、又は「千本^{カミタチウリ}上立売」、
 「千本今出川」より徒歩約 5 分

JR 京都駅より(所要時間 約 40 分)
 地下鉄烏丸線「烏丸今出川」駅下車、3 番出口を出た後、
 烏丸・今出川通の交差点の今出川通沿いの東側バス停
 から西行きバスに乗り、バス停「今出川浄福寺」下車
 市バス:A3 の 206 番乗車、バス停「千本上立売」下車、
 又は B2 の 50 番、101 番乗車、バス停「千本今出川」下車



シリーズ勉強会全体の予定 (講師 上野邦一先生)

第 1 回 平成 25 年 6 月 5 日(水) 午後 5 時 45 分~7 時 15 分 (開催時間: 全回共通) 「文化財建造物は増えている」

「文化財は、摩耗したり劣化したり、あるいは災害に遭ったりして減るはずである。しかし増えている。物件が増えているのではなく、考え方が変化することにより、文化財として認める件数が増えているのである。こうした様相を文化財保護の歴史を振り返りながら、考える。」



奈良・きたまの旧鍋屋派出所
 地元の方々の熱意で保存し、地元
 のボランティアが「駐在 さん」になり運営

第 2 回 7 月 3 日(水) 「世界遺産の誕生、最近の動向」

「昨年京都で世界遺産条約採択 40 周年の記念イベントがあった。世界遺産という考え方は、比較的新しいと言えよう。条約はユネスコ総会で 1972 年に採択されたが、日本の批准は 1992 年である。どうして遅かったのか。そして日本で登録が始まると、こんどは世界遺産症候群とでも呼べる風潮がある。」
 奈良ドキュメント、文化遺産保護と観光などについて考える。



フィリピンの世界遺産
 歴史的町並み: ビガン

第 3 回 8 月 5 日(月) 「文化財建造物の修理」

「日本の木造文化財の修理技術は蓄積があり、世界に誇れる技術だと思っている。ただし、第二次大戦前は新しい技術・部材に抵抗感がなかったのか、オリジナルな部分を損傷しているケースもある。また、戦後 1970 年代までは当初にこだわる修理の傾向が強い。“文化財になると釘一本 打てない”という言葉が流布した。活用が前面に出てきたのはここ 10 年か。」
 日本には木造の特徴を活かした、長い蓄積がある。材、人(技術)、信仰など。



平等院鳳凰堂の修理現場。
 いつもと違うものが見える

第 4 回 10 月 8 日(火) 「町並み保存のもたらしたもの」

関西木造住文化研究会(略称: KARTH^{カース})は 1998 年に発足以降、京都をモデルに、地域固有の木造伝統住文化を活かした安心・安全まちづくりの実現に向けた研究に取り組み、その成果を各地につなげる活動に継続的に取り組んでいます。

具体的には、京町家の歴史文化を活かして防火・耐震安全性を高めるための研究開発を行ない、その成果を指針として取りまとめて各地へ啓発すると共に、地震被災地での被災建物の修復情報支援活動に取り組んできました。また、地域住民のご協力を得て各種研究成果を実際のまちづくりに活かす活動に取り組んできました。その一環で行った平成 23~24 年度調査により、京都都心には戦時期の防災文化遺産(戦火から京都のまちを守るために市の防火改修補助事業で防火改修した町家)が約 400 棟現存している我が国でも他に例の無い都市であることがわかりました。